

提案件名	燃えるゴミ袋のサイズが変更になった件について
内 容 (要約)	燃えるゴミ袋大が持ち手つきに変更となり、今まで使用していたゴミ箱に入らなくなった。(入りづらくなった) また、持ち手の分サイズが小さくなり入るゴミが減ったなどの意見が旧袋の在庫がきれたここ最近散見される。 議員提案との事だが、決定までのプロセス、ブリックコメントの実施、アンケートの実施や併売の検討等なかったか、また今後住民等の意見により併売の可能性の有無などをお伺いしたい。
回 答	ごみ袋（大）については昨年度から現在の「手提げ式」に改めました。形状を変更した直接の原因は、令和6年9月議会一般質問において議員からの提案があったことでありますが、もう一つ、収集作業上の問題を改善したいという側面がありました。 町議会での質問の際にも指摘がありましたように、従来の手提げ部分のない単純な袋状のごみ袋ですと少しでもたくさんのごみを入れようと、上部を巻き込んで縛るのではなくガムテープ等で留めて出されるケースが散見されました。それが収集作業の際、あるいは収集ステーションの中でテープが外れて袋の中身が散乱してしまい、収集ステーションを汚損するとともに収集作業の効率を大きく低下させていました。 袋の形状を手提げ式にしますと、こうしたトラブルを確実に減らすことが出来ますし、手提げ部分があれば収集作業員は両手で2つの袋を持つことも可能になるなど作業効率が格段に向上するメリットがあります。県内の状況を見てもほとんどの自治体で手提げ式袋を採用していることから、ご理解ください。 変更当初は、「以前の袋の方がたくさん入って良かった」という声は届いておりましたが、袋の規格上は新旧とも45Lタイプの袋となっており、新旧ともごみ袋（大）として定めた容量規格を等しく満たしものである。旧タイプのごみ袋をお使いの際にしっかりと口を縛ってお使いいただいていた方であれば新タイプになってもさほど影響はないと考えております。 上記の通り手提げ式にしたメリットは大きく、その効果は結果として町民の皆様に還元されていると考えております。ごみ袋は毎年度必要分を発注しており、次回発注時には再度検討することになりますが、現在のところ旧タイプとの併売は考えておりません。 なお、今回の変更に合わせて新規に作成した小サイズの袋については力の弱い方でも楽に持てるように、あるいは、ごみを出す量が少ない方にとって、ごみ出しのサイクルがあまり伸びないよう（早くゴミ出しができるよう）小型のサイズがほしいとの要望に応じて作成したものであります。 町では今後ごみの減量化、ごみマナーの向上など環境衛生対策に努めて参りますので、ご理解ご協力いただきますようお願い致します。